

從學習者的立場探討課堂授課及翻轉教學的學習效果

李美麗

大葉大學應用日語學系 副教授

摘要

本研究是筆者擔任之一年級上學期初級日語語法課程，以「完全學習型」為目標，並以期中考為界，前半段採教師主導的課堂授課；後半段導入翻轉教學，授課完畢後以學習者的立場來探討這兩種教學法下之學生學習成效。

課程實踐的結果，學生對於翻轉教學所帶來的自律學習習慣的養成多持肯定態度，且無論在讀書習慣上、或是每周課外的讀書時間數，翻轉教學的學習成效都比較明顯。雖是如此，學習者的真心話卻是認為教師課堂授課比翻轉教學更對自己的語法學習有助益，其原因為「自己不懂的地方，在教室現場可以馬上問同學或老師」、「在同步授課時，預習的內容早就忘記了，沒辦法好好的參與課程活動」、「看解說錄影時，容易受到外部環境的影響，無法集中精神；而同步授課比較有約束力，能夠專心」等。

關鍵字：課堂授課、翻轉教學、解說錄影、學習效果

受理日期：2022 年 03 月 02 日

通過日期：2022 年 05 月 13 日

DOI: 10.29758/TWRYJYSB.202206_(38).0006

The learning effect of classroom lesson and flipped classroom from the learner's point of view

Mei-Li Li

Associate Professor , Department of Applied Japanese, DA-YEH
University

Abstract

This paper aims at "complete learning type" in the first half of the first grade Japanese grammar class that I was in charge of, and by incorporating a teacher-led simultaneous class in the first half and a "flipped classroom" in the second half, with the mid-term test as the boundary. From the learner's point of view, I would like to consider the learning effect in the classroom and flipped classroom.

As a result of lesson practice, learners generally take positively in the development of autonomous learning habits brought about by flipped classrooms. In addition, the flipped classroom is more effective for the number of study hours and study habits outside the class in a week. Even so, the true intention of the learner is that the lesson format of the classroom lesson is more useful for his own grammar learning than the flipped classroom. The reason is, "If you have any questions, you can immediately ask your classmates and teachers in the classroom." "I have forgotten most of what I had prepared in the actual face-to-face class, so I can't work on the classroom activities well." and "When I watch the commentary video, I am easily influenced by the external environment and I can't concentrate. The classroom class is more binding and I can concentrate on it."

Keywords: classroom lesson, flipped classroom, video commentary,
learning effect

学習者から見た一斉授業と反転授業の学習効果について

李美麗

大葉大学応用日本語学科 准教授

要旨

本稿は筆者の担当した一年生の上半期の初級日本語文法の授業に「完全習得型」を目指し、中間テストを境にして、前半は教師主導の一斉授業、後半は「反転授業」を取り入れることにより、学習者の立場から一斉授業と反転授業における学習効果について考察する。

授業実践の結果としては学習者は反転授業のもたらされた自律学習の習慣の養成におおむね肯定的に受け止めており、また勉強の習慣にしても、週の授業外の勉強時間数にしても、反転授業のほうが効果的である。それにしても、学習者の本音は一斉授業の授業形態は反転授業より自分の文法学習に役立つと思っている。その理由としては「分からないところがあったら、教室現場で直ちにクラスメートや教師に質問できる」こと、「実際の対面授業では予習しておいた内容はほとんど忘れてしまったから、教室活動にうまく取り組むことができない」ことと「解説ビデオを見ているとき、外部環境に影響されやすく、集中できない。一斉授業のほうが、拘束力があり、専念できる」ことが挙げられる。

キーワード：一斉授業、反転授業、ビデオ解説、学習効果

学習者から見た一斉授業と反転授業の学習効果について

李美麗

大葉大学応用日本語学科 准教授

1、はじめに

教室で一斉授業の教授形態はすでに今の時代に適していないとよく言われている。それは、情報の更新が目まぐるしく起きている高度情報化時代において、求められるのは大量の知識を記憶する能力でなく、習得した知識や技能を生かし、課題発見、課題をより正確に迅速に解く能力なのである。したがって、学校教育においては、このような時代の流れに適応し、いかなる分野における教育形式は伝統的な講義型授業から抜け出して、アクティブ・ラーニングの学習形態へ転向する傾向がますます目立っている。その中、反転授業は学習者の主動的・能動的な学びを促進している教授形態の一つだとされている。

筆者は長年初級日本語文法科目を担当する。これまでの授業形式では多少のアクティブ・ラーニングの活動を授業の中に取り入れるが、主に教師主導による一斉授業の授業形態で、学生からの教学評価の成績もあまり低くない。それにしても、前述のように、一方的な教え込みという受動的な座学形式の教育で育て上げた人材は社会で即戦力とはならない。イノベーションを推進する人材育成には学びの質を転換しなくてはならないと思われる。

ところが、とりわけ日本語を学習し始め、長年受け身的な教育に慣れている学生にとって、初級日本語文法の知識を教師から一方的に教え込むという一斉授業とアクティブラーニングの一手法としての反転授業と、学習者の目から、どちらが高く評価されるかに関して今までの研究ではあまり触れられていない。

したがって、本稿は筆者が担当した一年生の上半期の初級日本語文法の授業に「完全習得型」を目指し、中間テストを境にして、そ

の前は講義型の一斉授業、そのあとは反転授業を取り入れる教学の実践報告である。このようなまったく逆の教授形態を通して、学習者の学習状況・反応を観察し、講義型の一斉授業と反転授業の学習効果について考察しようと思う。

2. 先行研究

2.1 一斉授業

石井順治（2004）は『「学び合う学び」が生まれるとき』の中では、一斉授業の中の教師の姿は①教師が期待する正答だけを受け入れて進行しようとする事、②子どもの考えを聴くことよりも、計画どおりの進行にこだわる事、③子どもを褒めることよりも、注意することが多い事、の三つの点を教師の基本的な特徴としている。

それに対し、子供の姿は①教師に問われないと自ら考えようとしなない事、②仲間にではなく、教師に向かって答える事、③詳しく語ることが少なく、単語程度の言葉でしか話せない事、④子供同士の横のつながりが薄い事、⑤よく発言して活躍する子どもに偏りがある事、の五つの学習者の学習様子が見られる。

以上の叙述はこれまでの一斉授業の授業風景である。つまり、学生が黒板に向かって座席に座り、教師の授業内容を静かに聞いている。たまに教師が、「これ、わかる人？」と質問を投げかけ、学生たちが慌てて目をそらしたり、教師に向かって「これ、一です」と簡単な言葉で返事したりするのである。そして、教師が気になっているのは学習者の学習の個別差異でなく、「正解」を答えられる学生がいるかどうかということと、毎回の授業は果たして自分の計画通りに完成するか否かということなのである。

それに引き換え、久保齋（2005）の著書である『一斉授業の復権』の中では、一斉授業の授業風景について、「1人の指導者のもとに多数の生徒が同じ課題に取り組み、その成果を交流し、互いに深め合っていく学習形態をいう」と、別の解釈を示している。久保齋の

いう一斉授業とは教師は学級経営によって、学びの共同体を作って、深い学びを学習者にさせる授業形態なのである。

以上のように、同じく一斉授業と言っても、ついていけない学生を無視し、授業計画通りに授業を進めていく授業風景もあれば、学生の能力を引き出そうとして、学生の思考を促すようなグループ・ディスカッションで授業を進める授業風景もある。いずれにしても、学習者が自分のペースで学習を進めるのではなく、授業の主導権を握っているのはやはり教師であるのに変わりがない。

2.2 反転授業

反転授業の元々は学校で欠席する学生に学習のサポートをするために、授業内容を動画にして配信したのがそのきっかけとなっている。日本では、2011年に東京大学の山中が「Flipped Classroom」を「反転授業」と意識して始められたといわれている。

反転授業の定義については今まで学者によってその解釈が様ではないが、一般的には従来教室の中でおこなわれていた授業学習と、演習や課題など宿題として課される授業外学習とを入れ替えた教授学習の様式だという定義なのである（山内・大浦, 2014）。言い換えれば、反転授業とは学びのインプットとアウトプットの場を全く逆にする教育方法なのである。一般的には教師が授業中で教えた講義内容をデジタル教材として作成し、授業前に学習者に自宅で予習させる。そして、対面授業では予習した知識の確認、その知識を用いて練習問題に取り組み、または、学習者のわからない所の個別指導などを含めた深い学びを行う授業形態なのである。

そして、山内・大浦（2014）は反転授業を「完全習得学習型」と「高次能力学習型」の二つの類型に分け、完全習得学習型は、学生が学ぶべき知識を演習や個別指導を通して一定基準に達するのを目的とし、ディスカッションや発表、問題解決等の活動において分析・統合・評価する力の習得を目的とするのは高次能力学習型なのである。本授業は初級日本語文法科目なので「完全習得学習型」を目指して、授業設計をしていく。

中野彰（2015）は完全習得型でも学生のやる気を引き起こさせるために、何らかの手段を講じて、それを成績評価とリンクさせなくてはならず、また、授業中でグループの学習集団がうまく運営できるように、教師は授業設計に工夫を凝らすだけでなく、SAやTA支援が必須であると述べている。

そして、反転授業の課題点として豊里力也（2015）は「授業動画の視聴の問題」、「教師の活動の問題」、「生徒の主体的な活動の問題」などを取り上げている。特に、反転授業の重点は生徒の主体的な活動が中心となる教育方法であるから、「生徒の主体的な活動を促さなければ、曖昧な進行のままに授業終着する可能性が高い」と述べている。

つまり、反転授業は学生が自ら学び進めることで学習に対して意欲的な姿勢になりやすいとされているが、その反面、教師はいかに授業の前から、授業中、さらに授業後に至るまで、学生の学習意欲を引き出す授業設計をするかは反転授業を成功させる鍵であろう。

2.3 一斉授業と反転授業の学習効果

一斉授業と反転授業の学習効果の比較については MISSIDINE et al.(2013)は高等教育において一斉授業、一斉授業と補助教材としての対面講義の録画映像を応用した授業、反転授業の3つの教学形態を実践し、その学習効果を検討した結果、反転授業が最も高い学習効果が得られたと述べている。そして、van Alten et al.(2019) は従来授業と反転授業の比較研究を対象にしたメタ分析を行い、反転授業は従来授業よりも成績が顕著に上昇するとされている。

そして、中溝（2016）中上級の日本語学習者を対象に、日本語能力試験のN1、N2の文型・語彙を授業内容として、反転授業を16回行った。授業が終わったあと、アンケート調査を行って、特に「同じ内容で従来型と反転授業があるなら、どちらを選ぶか」については、反転授業を選んだパーセンテージは83%である。その理由の一つは「ビデオは時間のコントロールが便利である」とされている。つまり、従来型の講義ならば学習に困難のある学生が教師の授業ペース

に追いつかないことがあるのに対し、自宅の予習だと、自分の好きなペースで教科に取り組むことができるから、学習効果も自然に上げられるのであろう。

以上の先行研究から見れば、どの研究でも反転授業は一斉授業より高い学習効果を発揮するように見えるのである。ただし、各研究は反転授業の実践プロセスに重きを置いて、一斉授業の授業風景をあまり詳しく説明していない。また、反転授業を行う時間もせめて長期間の一学期である。このように、反転授業は長期間の実践において、学習効果が高いと言えるが、短期間の反転授業は必ずしも学習効果も高いとは言い切れないのであろう。

今度、筆者の実践した一斉授業の形は久保齋の述べたのと類似し、教師がただ一方的に授業を行うのではなく、教師の手により導かれたグループの一斉授業である。そして、中間テスト以後の反転授業は四回試みられた。このような授業形態なら果たして前述の先行研究と同じ結果なのかを探求する。

3. 授業実践の概要

3.1 受講対象者とシラバス

本授業は週2コマ（1コマ50分）の一年生の上半期の必修科目「初級日本語文法（一）」のコースで、中間テスト、期末試験を除いたら、全16週行われる。受講生は本学科の一年生の36人で、学習者のうち、ほんのわずかの人は高校で第二外国語としての日本語を学んだことがあるが、ほとんどの学習者は正式的に日本語を学習する経験はない。即ち、受講生はゼロから日本語の学習を始めたのである。

そして、一回目の授業ではこのコースの学習目標である「日本語文法の基礎固めをすること、能動的に文法を学習する習慣を身に付けること」を学習者に説明し、そして、授業形態も中間テスト（九週目）を境にして、前半は教師主導の一斉授業で、後半は反転授業を行うことを学習者に理解してもらおう。

文法授業の教材は市販される文法教科書でなく、筆者の手作りの

教材で、シラバスは表1のようにデザインされている。

表1 初級日本語文法のシラバス構成

教授法	週	主な文法内容
一斉授業	1-9	1. 名詞文（肯定、否定、過去、過去否定、中止形文型） 2. 動詞の種類、語尾変化 3. 動詞ます形文型（ます、ません、ました、ませんでした、ませんか、ましょう、ながら、に等
反転授業	10-18	1. 動詞ます形+たい 2. 形容詞文型 3. 存在文型 4. 動詞音便

3.2 一斉授業の概要

従来日本語初級文法の指導は文型中心で、学習者にできるだけ容易かつ素早く覚えさせるように、教師中心の知識注入型のような教え方のほうが多い。今度筆者の実践した一斉授業は教師主導で授業を進めていくのが変わらないが、教師が一方向的に知識を伝授し、詰め込み学習をさせるのではなく、適切な刺激を与え、学習者に能動的に文法の意味や構造を発見させるような発見型の教授法をとる。

具体的なやり方としては図1のように、まず、目標文型の例文を羅列し、各例文の共通点・相違点を課題として学習者に考えさせる。次に、グループ同士でディスカッションを行い、目標文型の構成の規則性や関連性をまとめ、その答えを教材の中に書いてみてもらう。そして、教師が学生を指名するか、各グループに討論の結果を発表してもらう。最後は図2のように、教師がまとめとして文法の要点を提出する。場合によっては、また、別の質問を出し、新しい討論に

入る。

<p>1. はじめまして、^{わたし}私は李^りです。どうぞよろしく。</p> <p>2. こちらは^{たなか}田中さんです。</p> <p>3. ^{だいようだい}大葉大学は^{しょうか}彰化の^{おおむら}大村です。</p> <p>4. 私は^{おうよう}応用日本語学科の^{せんせい}先生の^り李です。</p> <p>【質問1】1-4句型中、結構上相同点及相異点は何？</p> <p>相同点: _____</p> <p>相異点: _____</p>	<p>5. ^{かれ}彼は^{じゅうねんまえ}十年前、^{にほんご}日本語の^{せんせい}先生でした。</p> <p>6. ^{こゝ}ここは^{むかし}昔、^{こうえん}公園でした。</p> <p>【質問2】1-4 與 5-6 句型中、結構上相異点は何？您能找到關鍵字嗎？</p> <p>相異点: _____</p> <p>7. ^{ちん}陳さんと^り李さんは^{せんせい}先生じゃありません。</p> <p>8. ^{これ}これと^{それは}それは^{にほんご}日本語の本^{ほん}じゃありません。</p> <p>【質問3】7-8 與 1-4 句型比較中、您發現了什麼？</p> <p>_____</p>
---	---

図1 文法教材の例文

<p>1.はじめまして、私は李です。どうぞよろしく。</p> <p>2.こちらは田中さんです。</p> <p>3.大葉大学は彰化の大村です。</p> <p>4.私は応用日本語学科の先生の李です。</p> <p>1-4句型中、結構上相同点及相異点は何？</p>	<p>●相同点: 句型結構上: AはBです。 →名詞未來式・現代式・不限時式的敬體肯定。</p> <p>●相異点: 3-4句型結構: AはB (名詞+の+名詞) です。</p> <p>◆彰化の大村です。→所属</p> <p>◆応用日本語学科の先生の李</p> <p>◆兩個「の」一樣嗎？</p>
---	---

図2 教師の説明のパワーポイント

このような教師主導により、学習者が能動的に文法の規則を発見するというような文法指導法、及びグループ同士で同じ課題について検討したり、発表したりするような学習形態はすべて、中間テスト後の導入されようとする反転授業のウォーキングアップ活動と言

っていい。

言い換えれば、一斉授業から反転授業に転換する前、学習者が自ら学習し、考える習慣をできるだけ身につけさせなければならない。

3.3 反転授業の概要

中間テストが終わってから、反転授業の授業形態に入る。コースは次のようにデザインされている。

3.3.1 動画作成と予習について

授業前に教師は授業内容を解説ビデオ（mp4形式で1本15–20分程度）として作成し、学校のe-learningシステムや共有ドライブにアクセスして、学習者に見てもらう。そして、前述のように、反転授業とは、従来の対面授業で行っていた知識のインプットを事前にビデオ講義の視聴を通して、学習者に予習してもらい、対面授業となると、演習やプレゼンテーション、ディスカッションを通して、知識のアウトプットを行う授業形態である。したがって、反転授業を効果的に進める前提として、学習者は必ず自らビデオ講義を見て、事前に知識を身につけておくということである。言い換えれば、反転授業の予習率が高ければ、対面授業の教室活動はもっと順調に行われると言える。

予習率と言ったら、西尾他（2014）では学期平均67%、小松（2014）では同75%、古川・手塚（2015）では同69%で、藤田・芳賀（2017）は反転授業を実質化するために、単に予習を促すだけでなく、授業内で話し合う題材について予習の段階で学習者が回答を作成し、事前に提出するという予習課題を設定する必要があると報告した。

それゆえに、学習者の予習率を高めるため、筆者は文法教材と予習後の確認問題に工夫を凝らした。手作りの文法教材（図3を参照）にただ、例文と質問だけが羅列され、文型に関する文法解釈、質問の答えはなどは一切ない。学生は必ず解説ビデオを見ながら、文法に関する解釈・注意点などを教材に書くのである。

また、視聴後、制限時間内で学生に必ずZUVIOで予習内容に関す

る理解度の確認問題(図4を参照)を書いてもらう。また、理解度の確認問題のほかに、「今度の学習内容について簡単にまとめてください」、「今度の学習内容について理解不十分な箇所があれば、書いてください」などの設問を設けて、学習者の目標内容の把握、疑問点などを確認する。

(3) い形容詞第二変化(く)+て/な形容詞(で)：中止表現

■接続上

1. この教室は広いです。この教室は明るいです。

2. この先生は親切です。その先生は有名です。

い形容詞の連用形(—く)—中止表現
な形容詞の連用形(で)

■接続上

1. この教室は広いです。この教室は明るいです。
→この教室は広く(て)、明るいです。

2. この先生は親切です。この先生は有名です。
→この先生は親切で、有名です。

【注意】

い形容詞	書き言葉(書面語)	話し言葉(口語)
暑い	暑く	暑くて

初級以下口語表現為主

図3 教材と解説ビデオ

課程題庫 回復討論 課程相關 學生管理

← 返回課程題庫 □ 形容詞の連用形

+ 新增題目 搬移題目 隨機抽點

問答題 已作答：26人 更多
開放作答 請將本單元的內容，用最簡短且扼要方式整理出來?
排程

問答題 已作答：29人 更多
開放作答 基本題：
請將下列兩句話結合成一句話，並翻成中文
田中先生は有名です。田中先生は親切です。
排程

問答題 已作答：28人 更多
開放作答 基本題：
請將下列兩句話結合成一句話，並翻成中文
私は元気です。夏(そだ)ちました。
排程

図4 ZUVIOの理解度の確認問題

3.3.2 対面授業

対面授業で主に、予習内容の理解度の確認と深い学びの課題の探求といった二つの教室活動を行った。本研究の対面授業のねらいは

完全習得学習を目指すから、理解度確認問題にせよ、深い学びの課題にせよ、ただ問題の答えを解くだけでなく、学生に解説してもらうことを教学目标にする。実をいうと、学習者がどのような心理的、認知的働きにより、文法を習得している、即ち学習者の内面で文法知識の構築がどのような仕組みで進んでいるのか、表面から観察できない。したがって、対面授業では、学生が事前に習得した文法知識をもとに、教師の質問、あるいは深い学びの課題の答えを解説することを通して、学習者が何がわかって、何がわからないか、ほぼ把握できる。

それゆえに、対面授業の具体的なやり方としては、まず、予習の教材の穴埋めのところをチェックしてから、理解度の確認問題の訂正に入る。訂正の仕方は教師から正しい答えを直接に学習者に与えるのではなく、グループで正解を考えさせるのである。グループ内で答えが一致していない場合があれば、各自の原因や予習内容で理解したものをお互いに説明し合うのが求められる。討論時間が終わってから、グループに説明してもらう。言い換えれば、ただ正解をもとめるのではなく、各学習者が協働で問題を解決し、互いに認知プロセスを外化することにより理解や記憶を深め、習得につながることを目指している。最後は学習者の書いた予習内容に関する疑問や不明点を中心にグループで議論、対話を行い、検討する。不足する部分があれば、教師が補足する。

松下（2015）は、ディープ・アクティブラーニングでは、内化（知識の習得）と外化（知識の適用）を繰り返すなかで理解が深化すると述べている。それゆえに、予習内容に関する基本の文法知識の確認を終えてから、深い学びの演習問題に入る。

例えば、形容詞のて形の接続を例として説明する。図5のように、基本知識としての形容詞「て」形の接続の説明はただ「イ形容詞」、「ナ形容詞」の「て」形の接続の文法規則を羅列し、ちなみに、前の名詞文の中止形の使い方を復習するだけである。例文としても「イ形容詞」プラス「イ形容詞」、「ナ形容詞」プラス「ナ形容詞」の

接続で、かなり基礎的な文法表現である。そして、深い学びの課題に入ると、図6のように、「イ形容詞」プラス「ナ形容詞」、過去形の接続、更に前の文は形容詞の否定形が来る場合などの接続の問題も出てくる。つまり、単に文法規則を記憶する学びにとどまらず、基本知識で習得したものに基づいて、自ら考えることからグループ同士と対話を通じて、多角的に論理的な文法力や表現力を育成し、文法に関する深い認識を創造させていくのである。

形容詞の第二変化～中止形～接続

1. この教室は広いです。明るいです。
→この教室は**広くて**明るいです。

2. この先生は親切です。有名です。
→この先生は**親切で**、有名です。

形容詞中止形の規則

い形容詞第二変化(く) + て
な形容詞第二変化で

復習

名詞中止形

- 私は李です。日本語の先生です。
→私は李**で**、日本語の先生です。
- これはりんごです。それはバナナです。
→これはりんご**で**、それはバナナです。

請找出形容詞中止形句型結構規則

図5 基本知識としての形容詞「て」形の接続

考えてください 請將兩句話結合成一句話

1. この先生はイケメンです。やさしいです。
。
2. この先生はやさしいです。イケメンです。
3. 昨日は雨が強かったです。暑かったです。
4. 去年の冬は寒くなかったです。雪も少なかったです。
5. 田舎は賑やかではありません。都会はにぎやかです。

図6 深い学びとしての形容詞「て」形の接続の課題

4. アンケート調査

筆者は一斉授業と反転授業の学習効果を確認するために、授業が

終わってからアンケート調査を行った。アンケートの内容は選択問題と自由記述の項目からなる。

4.1 アンケートの選択問題の分析

まず、「今まで反転授業の経験があるか」という設問に、ほとんどの学習者が今度の反転授業は初めてだと答えた。要するに、学生たちは、文法授業の教え方に対する認識はもともと従来型の一斉授業の講義形式を想定しており、反転授業は初経験だと言ってもいい。

そして、「四回の予習ビデオ講義の中で、何回見たか」について、学習者のうち、25人(69%)は4回、7人(19%)は3回、3人(9%)は2回、1人(3%)は一回と答えた。筆者は更に「なぜ予習ビデオ講義を見ないか、その原因は？」と聞いたら、「すっかり忘れてしまった」と答える学生もいるが、最も多いのは「思い出したら、視聴の制限時間を過ぎてしまった」という理由である。つまり、学生は予習したくないというわけではないが、自宅で予習する習慣はまだ身につけていないと伺える。

また、「授業の後、復習として予習ビデオ講義をもう一度見るか」について、69%の学習者が「はい」と答えた。つまり、教師が録画した解説ビデオは予習にしても復習しても学習者が自ら主体的に学ぼうとする意欲を高めるのに役立つのである。

そして、学習者は一斉授業と反転授業の段階における読書習慣について聞いてみると、図7のように、「たまに勉強する」は、一斉授業にしても、反転授業にしても、両方とも同じで、約4割を占める。ところが、一斉授業の場合は学習者が定時に勉強する習慣はあまりなく、試験前に勉強するほうが多く、さらに、全然読書しない人さえもいる。逆に、反転授業の場合は、試験前しか勉強しない学習者が大幅に減少し、そのかわりに、定時に勉強する人が増加していることがわかった。要するに、反転授業の実施は学習者の読書習慣の変化に良い影響を与えていると言える。

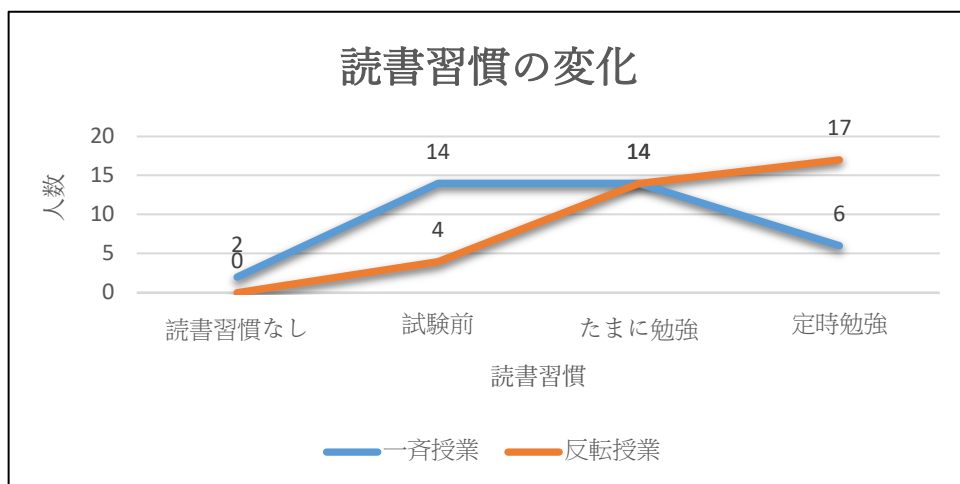


図7 一斉授業と反転授業の読書習慣

また、一斉授業と反転授業の段階における週の授業外学習の平均時間数について調査してみると、図8のように、「1-3」時間、「4-6時間」、「7時間」以上の人数は反転授業のほうが多い。「1時間」以下の人数は一斉授業の場合は10人にも達し、全体の28%を占めており、反転授業は2人まで下がっている。このようにみると、反転授業のほうは、授業時間外学習時間の顕著な増加であることが分かった。

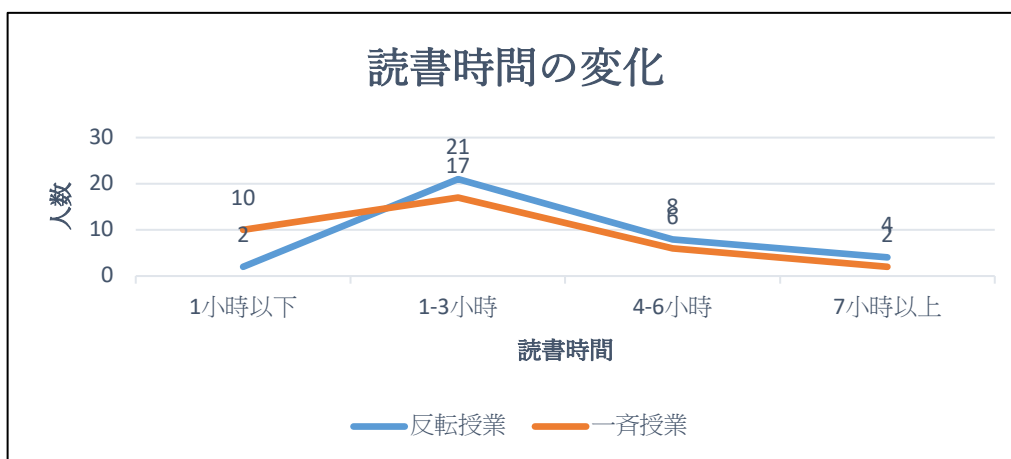


図8 一斉授業と反転授業の読書時間

そして、「反転授業は自分の自律学習に役立つか」は「とても当てはまる」と「あてはまる」という回答は83%程度である。以上のア

アンケート調査の結果から、反転授業は一斉授業より学習者に学習習慣が「能動的学習」に転換させるのに役立つことが分かった。

ところが、「一斉授業と反転授業を比較し、どちらが文法の理解を深めるのに役立つか。」という設問について、学生の本音としては67%の学習者が教師の教える講義型の一斉授業のほうが自分の文法学習に役立つと思っている。前のアンケートの結果から確実に学習者の反転授業に対する評価は肯定的で、またより効果的に学習するのに、どういうわけで、学習者はやはり勉強の負荷の少ない一斉授業を好んでいるか。その原因については次の節のアンケートの自由記述で探求しようと思う。

4.2 自由記述の分析

山西(2010:110)は「この自由記述こそ、学生が教員の授業に対して感じた事柄を表す「生の声」であり、その結果に真剣に向き合えば、今後の教育・研究活動の改善につながるものと期待される」と述べている。

本研究のアンケートの項目に二つの自由記述の問題がある。一つは「反転授業より一斉授業のほうがあなたの文法学習に役立つと思っている理由を書いてください」と「反転授業から学んだもの」である。

まず、筆者は「一斉授業と反転授業を比較し、どちらが文法の理解を深めるのに役立つか」の設問に「一斉授業」を選んだ学習者に「理由」(付録1)を書いてもらう。そして、回答の得られた記述内容から、どのような関係で使用されているのかを視覚的に捉えるために、KH Coder を用いて共起ネットワーク分析を行った。

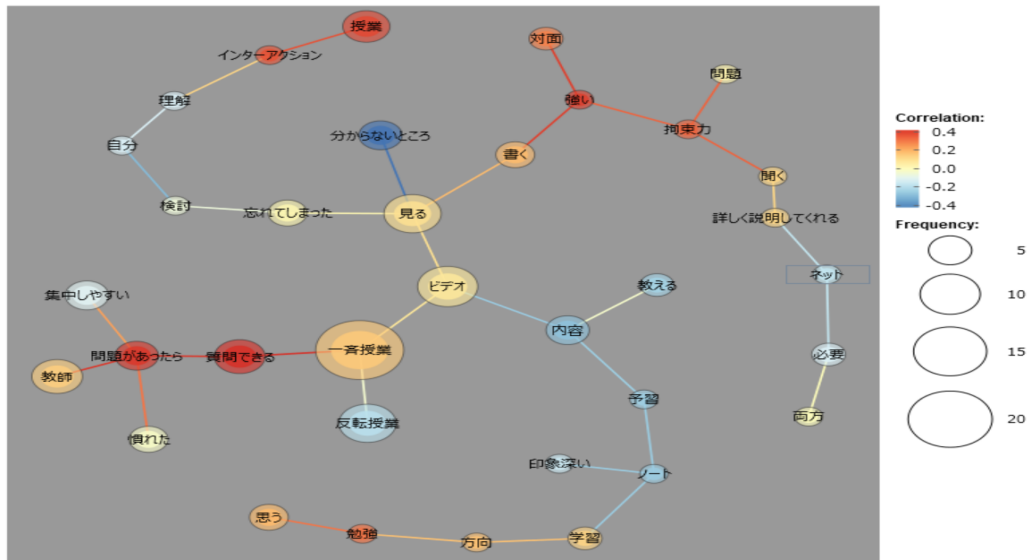


図9 一斉授業を選んだ理由の共起ネットワーク分析

学習者が一斉授業を選んだ理由としては、「教師が教えてから復習することに慣れた」、「一斉授業のほうが教師とインターアクションをしやすい」などの理由のほかに、もっとも注目されたのは「一斉授業の場合、授業中で分からないところがあったら、教室現場で直ちにクラスメートや教師に質問できる」こと、「解説ビデオも見て、ノートもちゃんと取ったが、実際の対面授業となると、見た文法内容はほとんど忘れてしまったから、対面授業の教室活動にうまく取り組むことができない」ことと「解説ビデオを見ているとき、外部環境に影響されやすく、集中できない。一斉授業のほうが、拘束力があり、専念できる」ことの三つである。

まず、「一斉授業の場合、授業中で分からないところがあったら、教室現場で直ちにクラスメートや教師に質問できる」という記述から、初心者の予習内容の分からない部分に対する不安感は筆者は強く感じられる。前述のとおり、筆者が予習内容後の確認問題に「今度の学習内容について理解不十分な箇所があれば、書いてください」という設問を設けて、学習者の問題点を把握したいが、実際のところ、予習内容について自分の問題点を提出する学習者は極めて少ない。自分の能力が露見するのを懸念するか、分からないが、学習者

の記述からみれば、学習者が無質問ではない。

祐宗(1995)は大学生を対象に、授業中になぜ質問をしないかの理由について調査をした結果、「恥ずかしい」、「目立ちたくない」、「質問するというスタイルに慣れていない」、「何を質問してよいか分からない」などの回答が取りあげられた。今度の教学実践から学習者が授業中だけでなく、自宅予習でも何の理由か今度調査しなかったが、質問しないタイプである。

したがって、学習者にとって、一斉授業の場合はクラスメートや教師がすぐそばにいて、分からないところがあったら、教師に質問するのに慣れなくても、クラスメートに気軽に聞けるから、一斉授業のほうが文法学習に役立つのだと考えられる。それゆえに学習者の事前学習の理解度をもっと把握するには学習者に質問をしてもらう習慣の養成もかなり必要だと思う。

そして、反転授業の特徴は対面授業で予習知識を生かし、教師とインターアクションをしたり、学生同士のお互いにディスカッションを通し、深い学びを行ったりすることである。したがって、「学生側に事前準備がないと、授業での活動は急ブレーキがかけられたかの如く機能停止の事態となってしまう」(カーク・スティーブン・西川純恵, 2018)とされている。前述のアンケート結果から今度の反転授業の予習率は約69%で、高い数字とは言えないが、自由記述から学習者の問題点は予習しないで授業に出るのでなく、予習したが、予習内容を長く記憶に留められないのである。その結果、対面授業の深い学びの教室活動にもうまく取り組むことができないことになり、かえって、学習の挫折感を感じ、反転授業の効果に疑問を持っているのであろう。

更に、多くの学習者が予習しているとき、あまり解説ビデオの内容に集中できないという感想を提出した。確かに、学習者は自宅あるいは学校の寮で予習しているとき、スマホ、ルームメートの雑談などから集中力を奪われやすい。その結果、予習したが、予習内容の知識がしっかり定着していない可能性が高い。それに対し、一斉

授業の場合は、全員が画一的な指導を受けるが、同じ学習目標に向かって、同じ経験をしながら学習を進めることができる。また、今度筆者の取った一斉授業の教授法は文法の教え込みというのではなく、教師が発問してから、グループ同士の討論や話し合いを通して発表させて、学級での共有化を図るのである。学習者にとっては、このような指導法はクラスの仲間との一体感や切磋琢磨ができることで、学習効果も高く感じられるのであろう。

次に二つ目の自由記述の「反転授業から学んだもの」(付録2)として、図10のように、学習者が反転授業から「自律学習の仕方がわかるようになる」こと、「だんだん自律学習の習慣を身につける」こと、「対面授業のときも授業内容をより早く理解する」こと、「分からない部分はビデオを繰り返し見ることができる」ことなどが挙げられる。このように、短い反転授業の体験でも、学習者は反転授業のメリットがしみじみと感じられるのであろう。

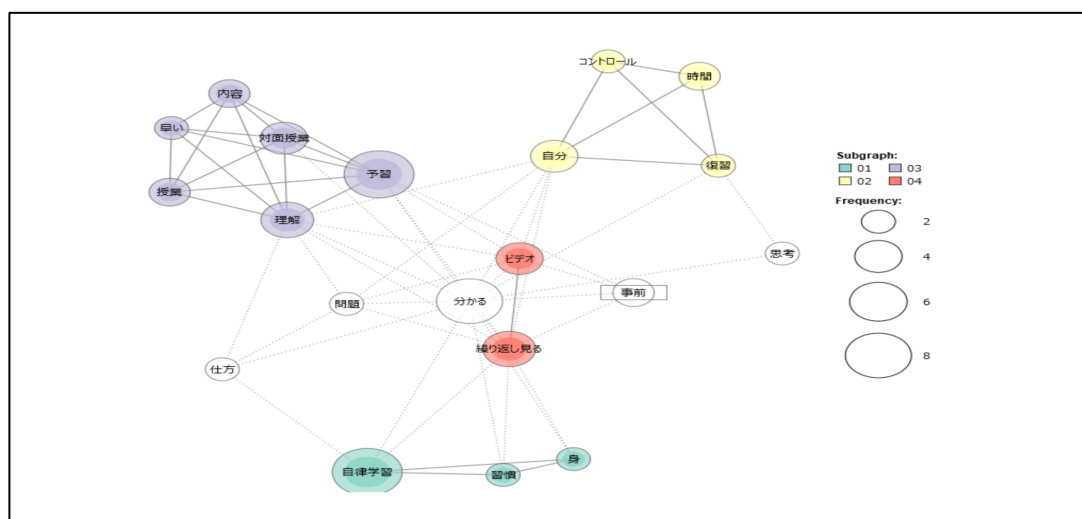


図10 「反転授業から学んだもの」の共起ネットワーク分析

5. 反省及び終わり

今度は新入生の目から見た一斉授業と反転授業という二つの教授法において文法学習の学習効果について探求した。アンケート調査から見ると、学習習慣にしても課外の学習時間数にしても、あらゆる

るの面において反転授業のほうが一斉授業より自律学習の面に関する効果が高いようにみえたが、学生の本音から一斉授業のほうがより好きだという結果である。

教師の面にしては、今度、筆者の一斉授業は従来の座学中心の講義でなく、学習者が自ら能動的に学びに行けるように設計された一斉授業なので、反転授業の未経験者にとっては、短期間の反転授業より、やはり対面授業で直接に教師から教わったほうが安心感があり、心理的に一斉授業のほうに向いているかもしれない。

それに対して、反転授業の実践で対面授業のアクティブラーニングを展開しづらいと深く感じられている。なぜ、学習者が予習したのに、対面授業の時間に、たまにはグループ活動よりも、動画内容の知識を繰り返さざるを得ないことが起こった。最初は学生はまだ反転授業の学習形式、授業中でグループの仲間同士とさまざまな課題に取り組むことに不慣れであるのが原因だと思っているが、予習はしたが、授業の時間となると、予習したものはすべて忘れてしまったというような学生のコメントを見ると、学習者の予習知識がまだ定着していなくて授業に出るのはおそらく対面授業のアクティブラーニングの活動に障害をもたらす最大の原因であろう。

また、解説ビデオを見てから、必ずZUVIOの確認問題を書いてもらおうと学生に要求したが、宿題をサボったり、いい加減に宿題をしたりする学習者はしばしば見られた。したがって、予習の質を高めないと対面授業のアクティブラーニングの効果も上がらない。カーク・スティーブン・西川純恵（2018）「事前小テストは最終成績の中で相応の割合を占めるようにすべきである」と指摘されるように、これからの反転授業の実践において事前学習への動機づけを強めようとするれば、予習内容の定着を確認する小テストも必要である。

確かに学習者が主体的に学び、考え、実践することは容易なことではない。また受動的な教育に慣れている学生にとっては、大学に入ってまもなく「能動的になれ」と言われても難しいものである。ところが、今度の教学実践において筆者が一つ気になるところがあ

る。それは反転授業の実施でもたらされた学生の学習習慣の微妙な変化のことである。学習習慣の定着は短期間で養成できるものではないが、今度ただ二か月の反転授業の実施で学習者が読書の習慣、授業外の勉強時間数などの面に、一斉授業より能動的に学習するほうに転換するのである。言い換えれば、反転授業の取り組みが長期的に行なわれると、学生の自律学習の習慣が定着できると期待している。

現在情報が溢れる時代に必要な能力は知識の記憶能力でなく、手に入れた知識を自ら考え、まとめて、自分のものとなる能力である。したがって、自律学習の養成は差し迫ったものである。

今度の文法の教学実践はこのままに留まるのでなく、下半期では今回の反転授業の長所と短所を明確にして、より効果的なアクティブラーニングを導入し、学習者の考える力や学習者の発話に焦点を当てて、効果の高い反転授業の設計をしていく。

参考文献

- Ausubel, D. P. (1963) 『 The psychology of meaningful verbal learning: An introduction to school learning』 New York: Grune & Stratton.
- LO, C. K., HEW, K. F., and CHEN, G. (2017) Toward a set of design principles for mathematics flipped classrooms: A synthesis of research in mathematics education. Educational Research Review, pp.22-50
- MISSIDINE et al. (2013) MISSILDINE, K., FOUNTAIN, R., SUMMERS, L., and GOSSELIN, K. ,Flipping the classroom to improve student performance and satisfaction. Journal of Nursing Education, 52(10) pp.597-599
- van Alten et al., (2019) D.C.D. van Alten, C. Phielix, J. Janssen, L. Kester , Effects of flipping the classroom on learning outcomes and satisfaction: A meta-analysis Educational Research Review, 28, pp.1-18,

- 石井順治 (2004) 『「学び合う学び」が生まれるとき』 横浜：世織書房
- 久保齋(2005)『斉授業の復権. 子どもの未来社』 東京：子どもの未来社
- カーク・スティーブン・西川純恵 (2018) 「脱・講義型授業へ—学習成果向上のための授業デザイン」『日本医科大学基礎科学紀要』 47 号、東京：日本医科大学、pp.31-47
- 小松泰信 (2014) 「導入教育におけるタブレット端末を活用した全学反転授業：事前ビデオ視聴とリアルタイム評価による効果」『ICT 活用教育方法研究』 17 (1)、東京：私立大学情報教育協会、pp.43-48
- 豊里力也 (2015) 「授業動画を利用した反転授業の研究—講義視聴による家庭学習習慣の定着から協働学習への深い学び合いを目指して」『沖縄県立総合教育センター1年長期研修員第5集研究集録』、沖縄：沖縄県立総合教育センター、pp.1-15
- 中野彰 (2015) 「反転授業の動向と課題」『武庫川女子大学情報教育研究センター紀要』 23、兵庫縣:武庫川女子大学、pp.35-38
- 中溝朋子(2016)「日本語中上級文法クラスにおける反転授業の試み」『日本語教育方法研究会誌』 Vol.22No.3、東京：日本語教育方法研究会、pp.78-79
- 西尾克己・住谷和則・岡田宏基 (2014) 「医学教育における反転授業トライアル」『香川大学教育研究』 11、香川県：香川大学、pp.107-112
- 藤田哲也・芳賀 瑛 (2017) 「心理学測定法の反転授業に対して学生はどう受け止めたかI ビデオ教材を用いた場合とテキストのみを用いた場合の比較」『日本心理学会大会発表論文集』、東京：日本心理学会第 81 回大会、pp.951-960
- 古川智樹・手塚まゆ子 (2015) 「日本語教育における反転授業の実践—文法教育における試みと課題—」『第17回(2014年度)日本e-Learning学会学術講演会論文集』、東京：計測自動制御

学会、pp.25-33

古川智樹・手塚まゆ子（2016）「日本語教育における反転授業実践—上級学習者対象の文法教育において—」『日本語教育』164, 東京：日本語教育学会、pp.126-141

松下佳代（編）（2015）『ディープ・アクティブラーニング—大学授業を深化させるために』、東京：勁草書房

山内祐平・大浦弘樹（2014）序文. ジョナサン・バーグマン&アロン・サムズ（著）『反転授業』、東京：オデッセイコミュニケーションズ、pp.3-12

山下泰生・陳那森（2015）「反転授業ICTを活用した反転授業の試行について」『研究紀要』16号、兵庫県：関西国際大学、pp.133-143

山西博之（2010）「教育・研究のための自由記述アンケートデータ分析入門：SPSS Text Analytics for Surveys を用いて」『外国語教育メディア学会（LET）関西支部 メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集』、東京：外国語教育メディア学会、pp. 110-124

祐宗省三（1995）「発達と教育：本邦の大学生の無質問行動に関する心理学的研究(第I報)」『武庫川女子大学教育研究所研究レポート』13 兵庫県：武庫川女子大学、pp.1-46

付録1：反転授業より一斉授業のほうが文法学習に役立つ理由

- 1 在課堂上較能集中注意線上課程較易分心
- 2 老師講的比較精準，網路有太多不太正確的資料
- 3 可前預習怕會對內容不了解的地方產生誤會，所以習慣先由老師教導後複習
- 4 因為「老師講授」是當下有不懂地方可以馬上提問了解，但「課前預習」檢討時已經隔了有幾天，感覺無法馬上吸收或是會忘記自己本來問題
- 5 有時候自己看日文課本看不懂，而且課前預習不一定每次都會看，也覺得老師講課的話在抄筆記在課本會比較有印象。自己看影片光寫可能看不懂然後寫完就忘記了。
- 6 比較容易專心在某一件事情上
- 7 因為課前預習內容有時候不太懂得時候還是需要老師講授上網查了之後，網路的內容不確定是否正確也還是需要詢問老師。因為是二選一、所以選擇了老師講授（個人覺得兩個方是一起使用對我的知識建構就有益）
- 8 小時候都是這樣上課，比較習慣。不過課前預習成效也不錯。
- 9 課前預習的話，到正式上課的時候很容易會把預習的內容都忘掉。如果是老師講授的話，我覺得會更容易吸收。
- 10 比較容易專注、有問題也可以馬上發問、最主要是喜歡老師您上課方式、比電腦上自學有趣一百倍～
- 11 我覺得都各有好處，課前影片看完一次後沒辦法印象深刻、需要多看幾次。老師講授的話、會更細一些、都很讚。
- 12 有老師授課印象較深課。
- 13 比較習慣然後感覺也比較容易專心，有問題時也可以馬上提問，對於老師講授的話、不會受外在因素影響
- 14 透過老師課堂中與學生的互動，比較能從中找出自己尚未理解

完全的地方，並加以改正。

15 老師講的會有比較明確的方向，課前預習容易造成方向感錯亂。本人以授台灣傳統教育的傳染、所以傾向老師講授。但是課前預習我認為可以促進自主學習，主動問問題。

16 老師講授。我覺得在老師講課能比較聽得懂、而且補充的也比較充裕，還有每次做完zuvio，再來上課、討論有時後忘了自己寫什麼，比較厚有那麼印象深刻。

17 我覺得老師授課我會覺得學的比較認真

18 老師講授當下可以問、雖然預習也不錯、但是能學習到的主要在課堂上。

19 老師授課有種習慣以及安心感的感覺、對我而言、當面講授跟課前預習沒有差太多，老師當面授課、我覺得約束力比較強烈、會讓自己比較專心；若是看影片，有時候會很懶惰，甚至連看也不看、沒有約束力。還有若是當下有問題可以追問問題，老師可以講得更仔細(當面授課)；看影片的話，當下有問題，馬上會想馬上知道，但又沒有人可問、在Zuvio上打問題也無法清楚地說明。

20 因為老師在會比較有感，然後比較吸收得了，課前預習會比較輕鬆，有時候會看時機對不對才要讀，這樣會較慢完成、然後看的時候會拖很久，可能跟自己寫筆記也有關，一個影片15分、我可能會看30~45分。

21 因為我覺得老師上課比較有互動，而且也比較白話。有問題可以馬上問、雖然看完影片也可以在ZUVIO上問，但常常下周就忘記了哈哈，而且我每次看著電腦螢幕都想睡覺哈哈。

付錄2：反轉授業から学んだもの

1 可以反覆觀看，學習

2 事先預習，不懂得可以重複觀看，直到了解，覺得很好

3 時間自己掌控 複習更方便

-
- 4 能增加自己的思考能力以及理解能力

 - 5 獲得知識

 - 6 強迫自主學習

 - 7 提早知道不懂的地方好發問

 - 8 藉由思考加深印象

 - 9 懂得自己找出問題，然後針對自己較不會的再去詳細了解。

 - 10 讓我會主動在課前自我學習

 - 11 有更多的機會複習不會的部分，且能與朋友互相思考

 - 12 學習自律

 - 13 可以不用一直問老師，可以回放

 - 14 先自主學習

 - 15 養成自主學習的習慣，有不懂的地方也可以反覆查看。

 - 16 自主學習後再由老師協助你把觀念弄得更清楚

 - 17 養成課前預習的習慣

 - 18 可以先預習內容，老師在授課時就更容易理解跟記憶。

 - 19 比較有時間可以消化新的東西

 - 20 可以提前先預習

 - 21 自主學習

 - 22 可以課前預習，之後老師上課時能比較快理解上課內容

 - 23 讓我會去提早預習

 - 24 懂得自主學習

 - 25 提升思考能力

 - 26 變得會主動去預習下一次的上課內容 下次上課時內容也理解的比較快

 - 27 可以先行知道不懂的點且於上課中獲得解答，在課堂討論中可以更了解他人的想法與自己想法的差異，並做釐清和整合

 - 28 促進自主學習

 - 29 讓我不怠惰 課前可以遇襲

 - 30 跟同學討論 表達自己意見得到最適合的回答
-

31 不懂可以反覆看，看完還有練習題可以馬上試，了解自己到底懂多少，因為只要看完影片，都以為自己都懂了，但是要運用的話，就會知道自己其實沒有吸收進去。

32 時間可以自己掌握~

33 可以先預習上課內容

34 會讓自己在課前預習，有不明白的可以在課堂上提出來。
